

# 連合長野 [9月]



2023.9.26  
No.453

発行/日本労働組合総連合会  
長野県連合会  
発行人/小松 豊

〒380-8545 長野市県町532-3 労働会館3F TEL 026-234-1626 FAX 234-1349  
E-mail info@nagano.jtuc-rengo.jp http://www.rengo-nagano.jp/  
フェイスブック https://www.facebook.com/rengonagano/



いかに残酷かつ悲惨なものだったかを痛感  
78年前に起きた沖縄での地上戦が、

## 沖縄米軍基地問題は、日本全体の 深刻な問題として捉えなければいけない

### ～連合長野・平和行動in沖縄～

連合長野は、6月23日～25日に平和行動in沖縄を行い、「2023 平和オキナワ集会」に9名が参加しました。集会で連合沖縄・東盛正行会長は、「戦争はなんの利益もなく悲しみと憎しみだけを生み、何処にも勝者がいない。愚かな事だと誰もが知るべき」と強く語りました。

翌日のピースフィールドワークでは、集団自決が行われたチビチリガマや、領土の15%を占める米軍基地、新基地建設が進む辺野古埋め立て地の見学が行われ、沖縄住民の苦悩や平和の尊さを肌で感じてきました。



沖縄集会への参加者

#### ■参加者からの声

##### ■山口 正巳 電機連合・連合長野副会長

78年前、太平洋戦争において沖縄は、一般の市民を巻き込んだ悲惨な地上戦の地となりました。今回のピースフィールドワークで訪れた「チビチリガマ」では、敵に殺されるくらいなら、と自分の子供や親を自らの手に掛ける、そんな悲劇が起こった事を知り、やるせない気持ちで一杯になりました。今もなお、日常的に米軍機が上空を飛び回り、落下の危険や騒音に苦しんでいる沖縄の人達にとっては、まだ戦争は終わっていないと思いました。一日も早く基地など必要の無い平和な世界にするために、私たちはこの悲惨な戦争を語り継いでいかなければならないと改めて思いました。

##### ■藤森 俊和 JAM甲信・エグロ労組

今、ロシアによるウクライナ侵攻などにより「平和」が脅かされている中、「慰霊の日」に沖縄を訪れ、今も県民を苦しめる米軍基地の視察や戦争の爪痕を巡りました。特にチビチリガマでは、子供を持つ親として、愛すればこそ自らの手で家族の命を奪うという、想像も出来ない胸が引き裂かれるような思いでした。決して戦争は起こしてはならない。そう誓う良い機会となりました。

##### ■中込 一 電機連合・OKIネクステック労組 小諸支部

第二次世界大戦末期、沖縄をはじめとする日本南端の島々は、日本本土を防衛する防波堤の位置付けにあり、唯一の地上戦が行われた地でありました。この地で失われた命は20万人とされ、その痕跡が残る場所の避難壕、砲弾痕を目前にすると一変、観光地とは思えぬ感覚を覚えました。この実態を誰もが一度は目にすることで、戦争は絶対に起こしてはならぬことと認識するのではないのでしょうか。

##### ■大久保 融 JP労組・諏訪支部

実際に米軍基地や、集団自決の地であるチビチリガマなどを見て、戦争の犠牲者、また、現在基地があることで苦しんでいる人達がいることを再認識しました。戦争の爪痕は非常に深く、現在に至るまで残っていると感じ、それを風化させてはいけないのだと考えさせられる2日間でした。



集団自決が行われた  
悲しい歴史のあるチビチリガマ



チビチリガマ付近のお地藏さん



対岸より辺野古埋め立て地を見学

■田中 達也 農団労・佐久浅間労組

78年前に起きた国内最大の地上戦がいかに残酷かつ悲惨なものだったか戦跡を見て痛感しました。そして、沖縄戦で起きた影響は今なお続き、これに対しては、沖縄の事とするのではなく一人ひとりが考え、日本全体の問題として課題解決に向け行動を起こさなくてはいけないと思いました。

■唐澤 尚史 JR連合・JR東海ユニオン

78年前の国内最大地上戦で多くの尊い命を奪われた惨劇を見聞きし、世界から戦争がなくなり、「皆が安心して安全にらせる世の中」になるよう

恒久平和への思いをより強くすることができました。

戦争の悲惨さを知り、平和を守るためにはどうしたらよいかを学ぶことができ、一番の経験となりました。

■土屋 文佳 農団労・佐久浅間労組

今回の沖縄視察は初めて我が事として戦争や平和を考える機会となりました。沖縄戦がいかに残酷で悲惨なものだったかを肌で感じ、戦争がもたらした傷跡の深さに恐怖を覚えました。そして今なお戦後被害は続いていて、本島面積の約15%を占める米軍基地と隣り合わせの生活をしている沖縄の人々の痛切な思いに、自分が今までいかに無関心であったかを痛感しています。沖縄戦は「78年前の沖縄の出来事」ではなく、現在まで続く日本の深刻な問題として捉えなければいけないと強く思いました。

■福原 久 電機連合・しなの富士通労組(高水地域協議会)

沖縄の過去の歴史を勉強させていただき感謝しています。沖縄の方達は、過去を真摯に受け止め、未来を真っ直ぐ見つめ行動していることを、今回の平和行動によって実感しました。

# 小学生の頃に、家族との死別や被爆者の描写のインパクトが強すぎて読み進めることができなかった「はだしのゲン」のことを思い出した

## ～連合長野・平和行動in広島～



原爆ドーム前での集合写真

連合長野は、8月4日～6日に平和行動in広島を行い、団員15名、子ども団員3名を派遣しました。ピースウォーク、千羽鶴の献呈、被爆78年・連合2023平和ヒロシマ集会、原爆死没者慰霊式・平和祈念式を通じ、原爆が投下されてからの被爆者の苦悩や、核兵器廃絶と世界恒久平和を求め続けてきた広島の歩みを知り、平和の尊さと被爆体験の継承の大切さを改めて感じました。

### ■参加者からの声

■川阪 竜也 自治労・長野県本部

初めての広島で、普段テレビやインターネットを通してしか情報を得てこなかった私にとって、現地で見にした原爆ドームや平和祈念式典は、「平和」についてとても考えさせられるものでした。原爆ドームそして平和祈念館では、たった一発の核兵器がこれだけ街や人々の生活を破壊してしまう恐ろしさを、当時の人々が書き記した生々しい手記で知ることができました。やっぱり戦争のない世界が必要だと改めて感じることができました。

■小林 孝子 自治労・県立病院機構労組 阿南病院支部

戦後78年、その間ずっと被爆・戦争という事実の苦しみに、悲しんで来られた方々が多くいることを改めて感じた3日間でした。自分なりに感じた事を、周りや次世代に伝えたいと思います。また、日本のみならず、世界中が平和に暮らせる日が1日も早く来るように願うばかりです。

はたらく人の想いと生きる **R 長野ろうきん**

さあはじめよう! 家計の見直し!

期間: 2023.6/1(木) ▶ 2024.3/31(日)

**カリカエ大作戦!**

詳しくはこちら

2023年10月1日現在

■ 添田 守 電機連合・日本無線労組

連合2023平和ヒロシマ集会の講師である箕牧智之氏は原爆投下後、父を探して投下エリアに入り被爆した。その7年後に4カ月間、原因不明の高熱により、死の宣告を受けるほどの重症となった。これが原爆症であったと知るのは後のこと。このように被爆を体験した方々は少なくなりつつあるが、平和に向けての想いを次世代の子供たちに伝えていきたいと感じた。

■ 添田 歩波 (小学6年生)

戦争はたくさんの方が被害にあった危険なものだということがわかりました。佐々木禎子さんは原爆症で、「生きたい」という願いをこめて折り鶴を折り続けたということや、被爆して9年後に症状が出たということを知りました。「生きたい」という気持ちがあるのに、戦争をすれば人が生きられなくなってしまうので、戦争など命を奪うようなことはやめたほうがいいなと思いました。今の戦争のない平和な世の中を守っていきたいです。

■ 宮沢 孝由 JP労組・北信支部

平和記念資料館を初めて訪れましたが、非常に衝撃的な展示内容でした。事前に学習していたものの、実際に見学すると原爆の恐ろしさや悲惨さが胸に迫り、苦しくなるほどでした。今回、息子も同行させていただき、戦争を知らない私たちですが、親子で平和について考えるきっかけになりました。

■ 宮沢 明良 (小学3年生)

家族で子どもだけのこってしまった話を聞いて、原ばくは人をしゅんにしてけしてしまうだけではなく、しななくとも大きな悲しみを感じさせてしまうんだなと思った。原ばくしりょう館にあったぼろぼろの服を見て、服がこんなにぼろぼろになるなんて、すごい力だなと思った。みんなが平わになれる世界を作ることが大切だなと思った。そのためにぼくは自分には何ができるか考えていきたい。

■ 添田 歩美 (高校2年生)

78年前、広島では起こってはならない出来事が起きてしまったのだと身にしみて感じる事ができました。原爆資料館では、鉄もドロロになっている情景や、子供がいなくなったことで半狂乱になってしまっている母親が描かれていました。私はそこで起きたことをすべて知ることはできないけれど、このような活動や資料から学び、友達や周りの人たちに伝えることはできると思うので取り組んでいきたいなと思いました。

■ 小林 茂喜 JAM甲信・松山労組

自分が小学生の頃に、家族との死別や被爆者の描写のインパクトが強すぎて読み進めることができなかった「はだしのゲン」のことを思い出し、さらにその中の描写が決して誇張などではなく、リアルなものだったことを痛感しました。特に印象に残ったのは、広島平和記念資料館で見た「頭髪が抜けた姉と弟」の写真でした。説明文によると当時9歳の姉と7歳の弟が原爆による放射線によって髪の毛が抜け落ち、その後二人とも若くして亡くなってしまったとのことでした。私の子どもも2歳差の姉と弟であり、この写真の姉弟と重ね合わせると、胸が締め付けられる思いでした。このような戦争、そして核兵器は決して次の世代へ残してはならないと感じます。「連合2023平和ヒロシマ集会」の中で高校生平和大使が発したメッセージ「ビリョクだけどもリョクじゃない!」を肝に銘じ、まずは自分の周りにいる人に、平和について発信していきたいと思えます。



78年目を迎える原爆ドーム



折り鶴を献呈する姉妹

■ 眞崎 莉久 電力総連・関西電力労組 木曾川地本支部

今回平和行動に参加したいと思った動機は、今年5月に開催された広島サミットでした。多くの外国人観光客のインタビュー映像を見て、自分も78年前の状況を目に焼き付け世界平和について考えたいと思いました。結果は、想像よりも悲惨な事実の連続でした。ウクライナ侵攻をはじめとする世界各地の紛争が1日でも早く終結することを切に願います。

“もっと多くの人が安心できる共済にしてほしい”  
組合員の皆さまの声を取り入れ、たすけあいの仕組みからできた保障です。

こくみん共済 NEWS

**こくみん共済**  
全国労働者共済生活協同組合連合会 **coop**

長野推進本部  
(長野県労働者共済生活協同組合)

〒380-8710  
長野市立町 978-2  
☎026-235-6139

みんなの安心を支える保障

子育てをがんばる/パパとママを応援!  
お子さまのための総合保障

こども 保障タイプ

月々の掛金 **1,200円**

▶ 加入できる方 0歳～満17歳の健康な方

■ 入院保障は最高365日分、日額1万円!  
■ 子育て・教育のエキスパートがサポートするサービス【こども相談室】をご提供!

入院・手術・先進医療など  
医療に手厚い保障

医療 保障タイプ **20**

月々の掛金 **2,300円**

▶ 加入できる方 満18歳～満64歳の健康な方

■ 先進医療の保障は最高1,000万円!  
■ 入院保障は1日目から、日額1万円!  
※60歳以降、保障額が異なります。

入院・障がい・死亡まで  
幅広くカバーする総合保障

総合 保障タイプ **20**

月々の掛金 **1,800円**

▶ 加入できる方 満18歳～満64歳の健康な方

■ 死亡保障は最高1,200万円!  
■ 入院保障は1日目から、日額は最高5千円!  
※60歳以降、保障額が異なります。

そのほかにも、備えたいリスクに合わせて、ラインアップから充実の保障を選べます。詳しくはリーフレットをご覧ください。



約1万人の学徒の霊を慰める動員学徒慰霊塔

■北村 勇樹

電力総連・中部電気保安協会労組 長野支部

今回初めて平和行動に参加し、平和とは何か考える機会となりました。昨今、ウクライナ情勢や台湾情勢等、世界が不安定になっていると感じています。平和という言葉は簡単に表せますが、原爆の日に広島を訪問したことで、今の平和を当たり前と感じてはいけないと気付きました。今回学んだことをしっかり受け止め、正しい過去を知ることで、周りの人に伝えていきたいと思っています。

■野呂 貴大

電力総連・中部電力労組 長野総支部

今回の平和行動を通して、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを感じた。私がとても印象に残ったのは、平和記念資料館に展示されている原爆が落とされた際の広島市民が描かれた絵だった。絵から広島市の悲惨な状況と人々がどれだけ苦しい思いをしたのか感じられた。原爆の恐ろしさや被爆した人の無念さ、平和の尊さを忘れずに他の人にも伝えていきたい。

■牧内 佑介

電力総連・中部電力労組 長野総支部

私は特に、平和記念資料館において、無差別に多く命を奪い、多くの人の人生を狂わせた原子爆弾の悲惨さを改めて感じた。展示物からは被爆者やその親族による悲痛な叫びはもちろんだが、後世に核兵器を絶対に残してはならないという強い意思が表れており非常に心を打たれた。私たちにはその意思を途切れさせないためにも、このような活動を通して後世に語り継ぐ義務があると感じた。

■原田 晋太郎

農団労・みなみ信州農協労組

原爆ドームなど、戦後78年たった現在でも、当時の現状を物語る跡地や被爆者の方のお話を聞くと、今までテレビや本で見聞きし、学校で学んだ時よりもさらに当時が悲惨であったことを理解することが出来ました。世界中で二度と原爆が使用されないように訴えていきたいと思っています。

■今井 秀行

自治労・長野県職員労組(上伊那地域協議会)

今回、高校時代の修学旅行以来、約30年振りに広島を訪れる機会を与えていただき、「労働組合がなぜ平和運動を推進するのか」を再考することができた。10代の「あの時」とは違う感覚で広島であった悲惨さを目の当たりにし、平和記念式典で小学生が語っていた「命を繋いでくれてありがとう」の重みを感じた。引き続き、この平和な社会に生きる者の責務として平和の学びを深めたい。

■藤松 龍

電機連合・富士電機メーター労組(連合長野青年委員会委員長)

今回の平和行動を通して特に印象深かったのは「広島平和記念資料館」です。展示されている写真などを見て、今まで以上に原爆の悲惨さについて知ることができました。戦後78年が経ち戦争を経験された方が少なくなっている中で、今回感じたことを周りに発信することによって、戦争の悲惨さを風化させないようにする必要があると思いました。

■本道 愛

農団労・信州うえだ労組(連合長野青年委員会副委員長)

平和記念資料館の見学では、原爆で亡くなった方の写真や遺品、人影が焼きついたコンクリート等が展示してあり、原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。二度と同じことが繰り返されないために、原爆や平和について学び、考えていかなければいけないと思いました。



原爆症で亡くなった、佐々木禎子さんを偲び建てられた原爆の子の像



あなたの住まい、大丈夫ですか？

住宅診断実施中

長野県住宅生協×専門機関のパートナーシップで「安心・安全のための住宅診断」を実施しています！  
まずはお気軽にご相談ください。

住まいは、不調であっても、声を出して訴えてはきません。  
『住宅診断』は住まいの声をきくことです。  
あなたのお住まいの声をきいてみませんか？

長野県労働者住宅生活協同組合

本部

長野県知事(10)2490号

TEL. 026-234-0283

〒380-0838 長野市県町523 ろうきんビル7F jyusei@avis.ne.jp

松本事務所

〒390-0841 松本市湊1丁目2-1

TEL. 0263-88-5061

ホームページもご覧ください

長野県住宅生協 | 検索

http://www.jyusei.jp/